柏崎・刈羽地域 和音作 だより R7.9.19 日本づくり R7.9.19 日本づくり R7.9.19

収穫後はすぐに稲わら、籾がら をすき込みましょう!

- ★ なるべく早め、遅くても 10 月中旬までに、 浅く(5~10cm) すき込むことで、腐熟が進みます。
- ★ ケイ酸や有機物を多く含む稲わら、籾がらを連用すると、 稲の安定した生育につながります。

秋すき込みのメリット		
土壌の有機質が増える	稲わらが分解され、土に栄養が供給される	
※ 初期生育が安定	翌年のガス湧きが軽減でき、初期生育がスムーズ	
根張りが良くなる	ケイ酸により根が深く広がり、倒伏しにくくなる	

★ ケイ酸、リン酸、鉄が不足しているほ場では、土づくり資材 や堆肥を積極的に施用しましょう。

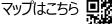
JA が扱う資材例 (10a 当たり施用量)		
不足している資材	ケイ酸	ニュー米スター(30kg)
	リン酸	苦土重焼燐(20kg)
	鉄	おぐに土づくり肥料 (30kg)
	全般に不足	柏崎専用土づくり肥料(40~60kg)

★ 高低差が大きいほ場では、水平になる ように地ならしも行いましょう。

「お問い」 柏崎農業普及指導センター (0257) 21−6263 合わせ先」かしわざき営農センター 21−0220 南部営農センター 41−6087 北部営農センター 45−2258

十壌特性は柏崎地域 土づくりマップを参考に してください。

※ 普及センターHP掲載の





来年の猛暑に備えて 今から土づくり!